

Press Release

2007 年 10 月 3 日

各位

大日本インキ化学工業株式会社

水性顔料ジェットインクの生産設備増強について

大日本インキ化学工業株式会社（本社：東京都中央区、社長：小江紘司）は、急速に伸びている水性顔料ジェットインクの需要に対応するため、生産拠点である埼玉工場（埼玉県北足立郡伊奈町）の現有生産設備を増強することを決定しました。

設備増強は、埼玉工場内の一部を分散体製造専用設備およびインク製造専用設備に改修するもので、今年 9 月に着工、来年 6 月完成、8 月生産開始の見通しです。投資額は約 10 数億円、生産能力は現在の 1,500 トンと合わせ、年産約 4,000 トンとなる予定です。

当社は長年、インクジェットプリンター用顔料分散体の研究を続けてきましたが、このほどプロ写真家向けプリンター、産業用ワイドフォーマットプリンターに搭載するインクの開発に成功しました。昨年から本格的な出荷を開始し、今後の大幅拡大が期待できる見通しとなっています。しかし、現有設備では年産 1,500 トン程度の能力であり、今後需要の大幅増に対応するためにこの設備増強を図るものです。当社では、2011 年のこの製品需要を約 4,000 トンと見通しており、出荷状況を見ながら再度設備投資を行うことを視野に入れていきます。今回の設備増強を通して、2010 年には約 70 億円の売上高を目指します。

また、今回の設備増強と同時に、次世代ジェットインクの開発を強化する目的で、ジェットインクの開発組織である R&D 本部 II 開発センターの体制の一部を集約・整備する計画です。

ジェットインクは染料タイプが主流ですが、プリント後の光による変色が弱点とされています。当社は、主力製品のひとつである有機顔料を用いて変色の問題を解決する一方、顔料タイプの弱点である鮮明さ、ノズルでの詰まりを粒径コントロール・分散技術などを駆使して克服し、プロ写真家向けプリンターなどにおいて鮮明なる写真印刷を可能としたものです。

以上

本件に関するお問い合わせ 広報・IR 部 TEL 03-5203-7838